The Bulletin of Meiji University of Integrative Medicine

病院外心停止症例における救急救命士による早期アドレナリン投与の有効性

植田 広樹，田中 秀治，田中 翔大，匂坂 量，田久 浩志

保健医療学部救急救命学科

【背景】病院外心停止症例に対するアドレナリンは傷病者接触から投与までの時間（以下 Adrenaline time）が早ければ脳機能予後に効果が期待されることが近年報告されているが，119 通報から傷病者接触時間（以下 Response time）と関連付けた報告はない．
【目的】早期アドレナリン投与が Response time に関係無く脳機能予後の改善に影響を及ぼすか検討する．
【方法】2011 年から 2014 年のウツタインデータから抽出した 13326 症例を対象．Response time が 8 分以内の群（n＝6956），8 分以上 16 分までの群（n＝6370）のグループに分け，グループを Adrenaline time が 10 分以内の群と 10 分以上の群に階層化し分析を行った．
【結果】Response time 8 分以内のグループでは Adrenaline time 10 分以上の群を基準とした Adrenaline time 10 分以内の群のオッズ比は 2.12（1.54-2.92）．Response time 8 分以上 16 分以内の同じくオッズ比は 2.66（1.97-3.59）であった．
【考察】病院外心停止症例に対するアドレナリン投与効果は，Adrenaline time が主に影響を与えている．
【結語】今後各地域 MC 協議会は救急救命士が早期にアドレナリンを投与するための工夫や再教育体制の見直しなどの努力が必要である．

運動競技中における心肺停止症例の検討

坂梨 秀地

保健医療学部救急救命学科

【背景】東京オリンピック・パラリンピックを控え，運動競技中での病院前救護体制の整備が急務である．
【目的】運動競技中における病院前救護体制構築のために突然の心肺停止（SCA）を分析し，社会復帰につながる因子を検討すること．
【方法・対象】消防庁救急搬送データ 2010～2014 年の 5 年間で発生した運動競技中での SCA356 件を対象とし，社会復帰群（n＝211）と非社会復帰群（n＝145）の傷病者背景や処置の違いを比較検討した．
【結果】運動競技中 SCA の 83%が心原性であり，VF 発生率が 44.1%と高いことがわかった（P＜0.01）．社会復帰群のバイスタンダー実施率（87.6%）では非社会復帰群と比べ有意に高い（P＜0.05）．
【考察】運動競技中 SCA の社会復帰率 59.2%は他の心原性心停止と比較しても極めて高い．運動競技中での SCA は心原性が多いため，バイスタンダーによる心肺蘇生や PAD が有効な対象である．運動競技中の SCA の予後の改善のためには，競技場の AED の適正配置や競技団体への更なる心肺蘇生法普及の徹底が必要である．